

寺社を巡る会

活 動 記 録 書

開催日： 平成 29 年 1 月 13 日（金） 快晴	開催テーマ： 鎌倉七福神巡り
開催場所： 鎌倉七福神	記入者： 山腰 策次郎
参加人数： 寺社を巡る会会員 男 30 名 女 4 名 計 34 名 ビジター 男 0 名 女 0 名 計 0 名 合 計 34 名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など） コース：JR北鎌倉駅～浄智寺（布袋尊）～鶴岡八幡宮・旗上弁財天社（弁財天）～宝戒寺（毘沙門天）～妙隆寺（寿老人）～昼食（婦人子供会館）～本覚寺（恵比寿）～江ノ電鎌倉駅～長谷駅～御霊神社（福祿寿）～長谷寺（大黒天）（解散） 七福神とは、 <small>にんのうはんにははらみつぎょう</small> 仁王般若波羅蜜經の「七難即滅、七福即生」に基づき、室町時代中頃に成立。対象神は、江戸時代中頃に恵比寿、大黒天、弁財天、毘沙門天、寿老人、布袋尊、福祿寿の七柱に決まる。鎌倉では、昭和57年に創設、「鎌倉江の島七福神巡拝」として続けられている。 朝方の冷え込みも七福神巡りをスタートする頃にはすっかり緩み、この時期としては絶好の探訪日和となった。最初に訪れたのは浄智寺。平日にもかかわらずかなりの参拝客で賑わっていた。境内の小さなトンネルを抜けた先の洞窟に少しユーモラスな姿で布袋尊が鎮座。福運をもたらす神と称えられ、お腹をなでると御利益があるとかで、スベスベに光っていた。 次に訪れたのは鶴岡八幡宮の旗上弁財天社。頼朝が平氏追討の旗上げをした時、妻政子がこの社で戦勝祈願したことでこの名がある。弁財天は七福神で唯一美貌を備えた女性の神で、音楽や舞踊などの芸事の神とされるが、現在は鎌倉国宝館にあり拝観出来ず残念であった。 次は毘沙門天がある宝戒寺へ。毘沙門天は北門を守る四天王の一つで財宝や戦勝に御加護があるとされることから、特に武士に人気があり、上杉謙信の軍旗に用いられたことはよく知られている。この寺の毘沙門天は小さいながらも甲冑に身を固めた姿には迫力を感じた。 次は住宅街の中にひっそりと佇む妙隆寺へ。この寺には「鍋冠り日親」の逸話があり、拷問に屈せず天寿を全うしたことから、長寿の神とされる寿老人が祀られている。 昼食は鎌倉ガイド協会のご尽力により、新木の香り漂う鎌倉婦人子供会館で。午後最初の訪問先は本覚寺。この寺の夷堂に恵比寿神が鎮座する。近年、この寺に奉納される提灯が鎌倉の年末年始の風物詩となっているが、その数の多さには圧倒された。 次は江ノ電に乗り福祿寿のある御霊神社へ。福・祿・寿の三徳を備える人徳の神とされる。神社の例祭日には珍しい面掛行列が行われ福祿寿も参加する。最後に訪ねたのは大黒天のある長谷寺。人気の寺だけあって大勢の参拝客で賑わっていた。この寺の大黒天は県内最古の尊像として観音ミュージアムに収蔵のため、現在は「出世開運大黒天」が大国堂に祀られ、手の届く場所には「さわり大国天」が安置されている。長谷寺で解散。	
参加者の状況・意見など： 年の初めの月例、天候にも恵まれ大満足の日。この1年の安全を七福神に祈願、幸先良し。	
次回の予定： 2月10日（金）13:00から 15周年記念講演会 横浜市大YCUスケエア Y203教室	